

次に、21 番松尾初秋議員の質問を許可いたします。御登壇を求めます。21 番松尾初秋議員

○21 番（松尾初秋君）〔登壇〕

（全般モニター使用）議長より登壇の許可をいただきましたので、21 番松尾初秋の一般質問をさせていただきます。執行部の答弁は簡潔で、正確にお願い申し上げます。

まず、防災についてであります。きのうの答弁で報告がございましたが、確認の意味で本年 8 月の長雨による被害状況を再度報告をお願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

松尾政策部長

○松尾政策部長〔登壇〕

8 月の被災状況ということでございますけれども、8 月の 4 日、5 日の大雨の影響によりまして、8 月の 6 日の早朝に県道武雄福富線の法面が崩壊し、幸い人的な被害はございませんでしたが、現在片側通行というような状況であります。それから 8 月の 20 日から、また激しい雨が降りましたが、特に山内町、武内町、若木町を中心に大雨になっております。武内観測所では午前 3 時から 6 時までの 3 時間 106 ミリという大雨を記録いたしまして、午前 4 時 23 分には土砂災害警戒情報が発表されたという状況であります。さらに北方町の西宮裾におきまして市道の法面が崩壊をいたしまして、こちらのほうも人的な被害はございませんでしたが、現在 70 メートルの仮歩道を設置しているというような状況でございます。

○議長（杉原豊喜君）

21 番松尾初秋議員

○21 番（松尾初秋君）〔登壇〕

確かに今報告ありましたけど、8 月異常に雨多かったですもんね。ほとんど晴れた日があんまりなかったんじゃないかなと思いますけども、ちょっとモニターばよかですか。（モニター使用）防災チャンネルとあるんですけども、このことでちょっとお尋ねをしていきたいんですけども。

まずもってですよ、有線テレビでやっているこの放送はですよ、市がやっているのか、どこがやっているのか、まずお尋ねしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

松尾政策部長

○松尾政策部長〔登壇〕

この防災チャンネルにつきましては、株式会社ケーブルワンさんのほうで今年の 6 月から放映を開始されているというふうな状況でございます。

○議長（杉原豊喜君）

21 番松尾初秋議員

○21 番（松尾初秋君）〔登壇〕

ある北方の方からちょっとありまして、雨量のですよ、こうリアルタイムに出ると本当に助かあねと言んさあわけですよ。そいぎ結局ですよ、携帯で確かに見られるとですよ。でも高齢者はですよ、茶の間で見んさあわけですよ。そいけんこうリアルタイムで、例えば北方で今1時間当たり何ミリ降りようとかこう出てくればですよ、目安になあていんさあわけですよ。近くの、例えば川に行つて今100ミリ降つたら、こんくらい川が太るけん、そういうふうにして自分でですよ、目安になるからですよ、そういうふうにできんもんかなという話でしたけども、まあケーブルワンさんがしているならですよ、まあ、やっているところにですよ、そういうお願いができないかお尋ねしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

松尾政策部長

○松尾政策部長〔登壇〕

おっしゃいますように、やっぱりテレビで見るとというのが一番見やすい、わかりやすいというふうに思います。そういうことで、ケーブルワンさんのほうに御相談をいたしました。そういうことで、台風接近とか大雨の際、そういう時間雨量とか積算雨量等について文字であらわすと、下のほうにありますけども、そういうことで準備をしているということでした。

〔21番「ああ、そうですか」〕

○議長（杉原豊喜君）

21 番松尾初秋議員

○21 番（松尾初秋君）〔登壇〕

特にですよ、地区ごとに例えば北方はどんくらいとかですよ、どこはどんくらいとかですよ、そがんふうにやっぱり出てくればですよ、助かんさあわけですよ。そいけん今私が言うたごとですよ、見やすいなあと言んさあわけですよ、そいけんその点を含めてですよ、再度またお願いをしていただきたいと思います。

次に、消防団について質問をしていきたいと思ひます。これ消してください。質問として、まず佐賀県の消防団の数ですね、これ私は全国一だという話を聞きましたけども事実ですか。

○議長（杉原豊喜君）

松尾政策部長

○松尾政策部長〔登壇〕

人口1,000人当たりということで計算をいたしますと、全国で1番ということでございませぬ。

○議長（杉原豊喜君）

21 番松尾初秋議員

○21 番（松尾初秋君）〔登壇〕

一応、全国一だということで今答弁いただきましたけども、実はですよ、私も 5 年半ぐらい前に 1 回この質問したんですよ。また同じ人からですよ、言うてくださいと頼まれました。そのとき話したのがですよ、実際自分はそのとき部長をしてですよ、やめて一団員に戻ったんだけどね、新しい人を入れようと思っても若い者がおらんと、おったとしても入ってもらえんと、消防団員やめられんとですよっていう話だったんですよ。それでもうその人がですよ、もうあれから 5 年たったわけですよ。いまだにやめられない、困ってですよ、私に相談して、その人はですよ、橘の人ですけどね、部長をして一団員に戻って、また 2 度目の部長もしとんさあわけですよ。(笑い声) いや本当ですよ。本当にね、もう私は 57 ですよって、もう 20 年以上おるんですって。やめられんとですよって、もうつくづく言んさあわけですよ。

そこですよ、お尋ねしたいんですけどもね、21 年の 3 月、今から 5 年半前ですよ。そのとき私が質問したときはですよ、部長をしてから一般団員に戻った人は何人ぐらいおんさあですか。そのときは、123 人おんさあわけですよ。本来ならば、大体部長まで務めたら勇退ですよ、退職ですよ。じゃなかったら、上部団員に行くかですよ、そういうのが大体普通なんですけどもね、その時点で 123 人おったんですけども、今何人ぐらいですか。

○議長（杉原豊喜君）

松尾政策部長

○松尾政策部長〔登壇〕

おっしゃいますように、部長を経験して再度団員のほうに戻ったという人数につきましては、現在全体で 160 人いらっしゃいます。

〔21 番「160 人」〕

さらに難しい状態になっているというふうに言えると思います。

○議長（杉原豊喜君）

21 番松尾初秋議員

○21 番（松尾初秋君）〔登壇〕

前回は 123 人。そいぎ、結局ですよ、今 1,423 人ですかね、実数が。1 割以上、そがんもんのおんさあわけですよ。また 5 年前とするぎですよ、増えとうっちゅうことですよ。ということは活性化していない、滞っている状態じゃないかなというふうに思います。

ただそう言いつつも、まあ新聞の話をしますけども、市長が今度英断で、職員を条件つきで消防団に採用するとかそういうのが載ってましたので、ちょっと御紹介をしたいと思いますけども、これは今年の 5 月 29 日の佐賀新聞で武雄市職員消防団加入、33 歳以下男性団員確保で要請へということで、全国的に消防団員の数が減少している中、武雄市は 33 歳以下

の男性職員を居住区の消防団に原則加入することを決めたというという記事がございました。そして、今度は6月12日の西日本新聞ですけど、採用条件は消防団入団と。武雄市の樋渡市長は11日に、8月の募集する来年度の市職員の採用から33歳以下の男性について消防団入団を条件としたいと考えを示したということですけども、その後の答弁でですよ、男性に限らないというふうな答弁をいただき、男女を問わないということ聞いております。樋渡市長の言葉の中にはですよ、公務員は一般市民とは違う責務を有しているのです法的に調整する必要があると思うが、消防団に入りたくない人を採りたくないというふうに述べられておられました。

〔市長「そうです」〕

私はそのときも、こういう提案を私はしました、5年半前に。条件ばつけんですから。消防団に入るとば条件つけて採用せんですかと言うたときはですよ、その当時は、まあ条件は無理だという答弁でした。要請としてはオーケーと。無理な理由は試験の公平性、中立性の関連から無理だという話でございましたけども、今度は市長さんが英断で、こういうふうな立派な制度をちゅうかですね、こういうふうな条件をつけていただいたちゅうことを高く私は評価したい。まあちょっと遅かったですけどね。

そこですよ、ちょっとお尋ねをしたいんですけども、今度から国の資料によりますと、これは法律が変わりましたね。消防ですよ、消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律というのが、去年の12月にできておまして、消防団の強化というのが8条にございまして、国及び地方公共団体はすべての市町村に置かれているようになった消防団が、将来にわたり地域防災力の中核を欠くことのできない代償性のない存在であることを鑑み、消防団の抜本的強化を図る必要な措置を講ずるものとする。消防団加入の促進ですね、9条、国及び地方公共団体は消防団への積極的な加入が促進されるよう地域を自らが守るという意識と啓発を図るために必要な措置を講ずるものとするということで、それを受けて消防庁次長からですよ、消防団を中核とする地域防災力の充実強化に関する法律の交付及び施行についての通知などがございまして、この中にも消防団の強化、消防団への加入促進というふうに促進強化をうたっておりますけどね。実際ですよ、質問としてですよ、新入団員が入ってきて、私はその適齢者減っているんじゃないかと思っておりますけども、その辺どうでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

松尾政策部長

○松尾政策部長〔登壇〕

消防団の適齢層というのを仮に35歳未満というふうな年齢で区切って言わせてもらいますと、男性ということで申し上げますと、その人口を10年前と比較をいたしますと、平成16年の4月が約4,400人、それから今年の4月が3,750人ということで650人ほど減少いた

しております。減少率にいたしますと約15%ということで、人口そのものが減っているというふうなことでございます。

○議長（杉原豊喜君）

21番松尾初秋議員

○21番（松尾初秋君）〔登壇〕

まあ15%、650人ぐらい若い者が減りようということはわかりました。まあ、東日本の大震災を契機に、国が消防団の充実強化を図るのはですよ、気持ちとしてはわかあとですよ。気持ちとしてはよくわかりますよ。ただ適齢者が減ってる中でですよ、国が地方に求めること自体に無理があるんじゃないかと思います。わかりやすい話をしたら、高校は再編があったですたいね。あれは何で再編ですか。子ども減っているから高校ば減らしようですよんねって、これわかりやすかったですよ。ただ私も議員の立場だから、消防団ば減らせとまで言いませんよ。ただね、私はこういうふうに国が求めていることにね、ちょっとね、この方向性っちゅうのには無理があるんじゃないかなと思いますけども、気持ちはわかりますよというのも思いますけども、そう思いませんか。

○議長（杉原豊喜君）

松尾政策部長

○松尾政策部長〔登壇〕

おっしゃっていることは非常にわかります。同感いたします。今さっき言いましたように、適齢層の若者自体が減ってるという中で災害はこういうふうに多発をしておりますので、消防団そのものは、ぜひ定数確保したいということで、相反する状況をどうやって打破するかということですが、非常に難しい面があるかとは思いますが。正直そういう気持ちであります。

○議長（杉原豊喜君）

21番松尾初秋議員

○21番（松尾初秋君）〔登壇〕

最後にですよ、この問題質問したいんですけども、まあこれはですよ、市の消防団と市が協議した上の前提の話なんですけども、例えば20年以上勤めた団員に限ってですよ、本人が希望すれば新入団の補充ができなくてもやめるような制度、そういう制度をどうしてもつくってもらいたいと思いますけども、この点についてはどうなんでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

松尾政策部長

○松尾政策部長〔登壇〕

先ほども申しましたように、こういう状況の中でどうしても団員の数を確保したいということがございまして、この場でそういうことをお約束するということはできないと思います

けれども、団員の負担——結構訓練とかですね、そういうことで出動する機会もございます。そういった面で、できるところは軽減を図りながら、ぜひ御理解をいただきたいというふうに思っております。そういう件につきましては、ぜひ、よくよく消防団のほうとまた協議をいたしまして、検討できることは検討していきたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

きょう消防団長もお見えですけども、私ね一番最初に市長に就任して驚いたのは、出初め式のあの長さ。私になったときの前まで3時間くらいやって、あの寒い中ですよ、1月の。これ、出初め式そのものがもう意味があるのかなど。要するに1月のすごい忙しい時期に、しかも寒い中ですよ、ああいうふうにこう行進をすること自体にね、それは儀式としては意味があるかもしれないけれども、今団員さんが減って行って、かつ、あれですもんね、そういったものに対して若い人たちがどう思っているんだろうって。それよりも実地的な訓練をもう少ししたほうが、同じ時間だったらですよ、いいんじゃないかなって思ってるんですね。なおかつ、吉川里己副議長が再三おっしゃって実現させましたけれども、年末の警戒ですよ。あれも、もうことほどさようにもう意味がほとんど薄れているんじゃないかと。昔ありましたよね、朝日町のどこかでね、年末警戒のとき火事があって誰も行く人がいなかったというのがありますので、一回これね消防団で総見直しの時期が来てるんじゃないかって。それが、私たちが思っている以上に負担になってるんじゃないか。これができるのは末藤さんしかいないですよ、消防団長の——とっておりますので、負担軽減はそういった身の回りのことからやっぱり考える必要があるだろうと。重ねて申し上げますけれど、消防団の果たす役割はやっぱり大きいんですよ。最近私が住む地区でも繰り返し今火災が起きていて、やっぱり早いんですよ、消防団の。しかも、物すごく訓練をしてもらっていて本当に頭が下がりますので、そういった皆さんたちのお気持ちをもっと大切に、今でも大切にされてますけれども、さらにやっぱりこう思い図る必要があるだろうと。

それでデータで申し上げますけれども、私ども市の職員の33歳以下のね、95%がもう消防団に加入しています。どうしても、残りの5%ですよ。ちょっとこれ数を申し上げると特定になるので言いませんけれども、例えば介護、親御さんの介護が必要だったりとかいろんなちょっと事情がありますので、やむを得ない事情がありますので、そういう意味で入るべき職員は全員入っているということですよ。これはさすがに武雄市役所は、やっぱり副市長を中心としてすごいなということは思っております。

いずれにしても、まず隗より始めよ。職員の条件の話も出てきましたけれども、やはり武雄市の職員が消防団の活動等においてもね、先頭に立っていかないと、地域住民の皆さんたちの気持ちがくっついてくるとはとても思えませんので、御指摘のようにいろんな諸事情あ

りますけれども、市民福祉の維持向上に向けて頑張ってまいりたいとこのように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

21 番松尾初秋議員

○21 番（松尾初秋君）〔登壇〕

市役所職員さんたちの消防団加入がですよ、私も5年半前にも言って数値目標もつけて上がるように頑張ってくださいという話もしましたが、今市長の英断ですよ、そういうふうに職員さんの加入促進を図られていることには高く評価しておりますけどもね、末藤団長さんがおられますけどもね、本当にこの見直しですね——やっぱり、部長までして一般団員に戻った人が160人もいるというのは、ちょっとやっぱりはっきり言って異常な状況であってですよ、やっぱり、やめられんてなったら誰も新しくもう入らんですもんね。そがんごた状況やったらですよ。そいけんやっぱりですよ、その辺は減らすとこ減らしてでもですよ、そこはですよ、何ですかね、協力団員ですかね。何ですかねあれ、何て言うんですかね……（「支援」と呼ぶ者あり）支援団員か。そういうので、こうカバーするとか何とかしてですよ、やっぱ50も過ぎて、部長ばして、一般団員になってまた部長ばするごたことは二度とないようにですよ——やっぱり本当に切実にその人は私に訴えられたんですよ。何とかしてくれんですかって。そういう思いで、そういう気持ちをお伝えしたくですよ、きょうはこの質問を取り上げましたですけども、まあ消防団のことはこのぐらいにしときます。

次にですよ、体育施設についてであります。これもですよ、ある人の話なんですけれどもね、ちょっと表現は悪いんですけども、その人の話では、私もあんまりわからんやったとぼってん、鹿島の陸上競技場に行ったらストップウォッチば押さんでもはかられたって。松尾て、わいもこればゆうてくいろって。鹿島しゃーがって。これ私の言葉じゃないですよ、その人の言葉ですよ。鹿島しゃーが、あるとばいって。3万人ぐらいの鹿島しゃーがって、武雄でもつくるごと言うてくんさいって話をいただきました。

そこでですよ、私もこういうのなんか苦手なんですよね、体育施設なんかね。専門じゃないのでわかりませんが、ちょっと調べたら計時システムというようなシステムらしかです。それがなんか鹿島はついでうらしかです。武雄はなかとぼってんですよ。

質問としてですよ、白岩競技場に計時システムの導入ができないかお尋ねしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

井上教育部理事

○井上教育部理事〔登壇〕

御質問の計時システムにつきまして、モニターを使って御説明をしたいと思っております。（モニター使用）こちらのほうが計時システムと言われるシステムでございますが、スタート面

によりましては、このスタートのピストルの音、それからスターティングブロックですね、これを離れるときの瞬間をセンサーが感知するという形になっております。

一方ゴールのほうでございますが、ゴールのほうでは右下のほうにありますように、ゴールする瞬間をですね、センサーが捉えるというシステムでございます。

白岩競技場でございますが、御承知のとおり白岩競技場、土の走路になっておりまして、昭和51年に建設されまして、既に38年がたっておりまして非常に古い施設でございます。こうした走路が土であります白岩競技場にですね、計時システムを導入するという形になりますと、走路にセンサーなどの配線を埋め込んだ上で、そしてまた全天候舗装材というものを舗装する必要がございます。仮に設置をするということであれば2億円以上の経費がかかるということが試算されておりまして、導入のほうは考えておりません。

○議長（杉原豊喜君）

21番松尾初秋議員

○21番（松尾初秋君）〔登壇〕

古い51年にですかね、できた競技場なので2億円以上かかるんですよ、考えてないということですね。もう、どっちみち新しかとはつくらんですか。新しかですね、私はそう思いますけども。

質問になりますけども、公式大会ができるようなですよ、ほかの議員さんも今までこういうふうな話されたと思いますけども、陸上競技場の新設についてはどがんでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

井上教育部理事

○井上教育部理事〔登壇〕

御承知のとおり、今後の体育施設の整備につきましては、市内の全施設について全般的に総合的に考えつつはございます。したがって、もし今後陸上競技場の建設を考えるということがございましたらば、そのときには研究課題の一つとしてさせていただきたいというふうに思います。

○議長（杉原豊喜君）

21番松尾初秋議員

○21番（松尾初秋君）〔登壇〕

その人はですよ、鹿島しゃーがつくっとおけんですよ、という話やったんですけどもね。いずれにしてもですよ、そういうのもまた研究して考えてくださいよ。もう、この質問はこれで終わります。消してください。

次にですよ、公開質問状についてであります。写真よかですか。（モニター使用）

これはちょうど選挙期間中に、私のところにも松尾初秋様ってこうね、武雄市図書館・歴史資料館を学習する市民の会からこういうふうな封筒が来まして、中は武雄市長、市議会議

員立候補の皆様へちゅうことで、こういうふうを書いて来たんですね。武雄市議会議員候補の人にはこういうふうな内容で来ましたけどもね、これが4月の1日に持ってこられたわけですよ。(発言する者あり)

それですよ、これですね、私ですよ、これ何ですかね。武雄市図書館・歴史資料館を学習する市民の会ですよ。今回は市議会候補の話だけしかしませんけども、あなたは議会基本条例の制定する意思がありますか。あなたは市民の報告、説明、どのような形で行いますか。あなたは小学生以下のタブレット端末反転授業導入に賛成ですかとか。これ何も関係なかとですよ、図書館に。私はですよ、こういう団体から来れば、やっぱり図書館に今後——図書館をどがん思いますかとですよ、そういう質問内容ならよくわかりますよ。何も関係なかとですよ。私ですよ、これ選挙の嫌がらせじゃないかというふうには感じました。違和感を感じました。この質問自体に、はっきり言って。(発言する者あり) そういうふうには思いましたけどもですよ、この団体と質問内容が乖離していると私は感じましたけど、市長はそう感じませんか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これね、公開質問状を出す権利というのがあるんで、それはちょっと私たちも受ける立場であると思うんですが。ただこれ問題なのは、このとき投票日が4月6日日曜日で、選挙告示が3月30日なんですよ、1週間前の。これ私たち一緒だったじゃないですか。これね、熊本にはくまモンっていますけど、この場合だったらこれ、いちゃもんと言います。(「うまい」と呼ぶ者あり) いや本当にそうなんですよ。我々は告示の日にそろえて選挙公報を出してないですか、選挙公報を。ですので、市民の皆様方はそれをごらんになった上で、かつ立会演説会を場合によってはやるじゃないですか。そこにお越しいただいて、さまざまな質問をするというのは僕はありだと思うんですよ。しかし、告示が終わってこれを出すということは、手間暇以上に我々が公職選挙法上で許されている、認められているものを超したもののなんですね、これ。ですので、そういったものについて、確かあの当時メディアもね、こういうの出てきたというので、僕はメディアで知ったんですよ。当時私のところは選挙事務所にこれが来ましたので、それはもう見もできなかったんですね。私のところに話が来なかったんで。確か、佐賀新聞か西日本新聞か朝日新聞かな、こう見て何じゃこりゃって思ったんですね。かつ、メディアもどうかと思いますよ、こんなのを載せるのは、告示の後に。

ですので、非常にあのときは出された方々にも不信感を抱きましたし、かつ選挙を私たちは正当な権利あるいは義務にのっとって行っているときにね、メディアの報道自体にも極めて不信感を抱いたということには私は尽きると思ってますので、そういう意味では、ちょっと長くなりましたけれども松尾議員さんのお考えと一緒に。嫌がらせだと思いません。

○議長（杉原豊喜君）

21 番松尾初秋議員

○21 番（松尾初秋君）〔登壇〕

出す権利はあるばってんですね、確かにね。何も関係なかですもんね、図書館と。物すごく私は違和感を覚えました、はっきり言って。

それですよ、これですね、こういうふうに今さっき見せたんですけどね、ここですよ。つきましては大変お忙しいと思いたがって、忙しすぎ出さんぎよかとですよ。〔笑い声〕そがん思わんですか。忙しかと思いたがって、出さんぎよかとですよ。

私ですよ、私もちゃんと書きましたよ。選挙期間中のため大変お忙しいとわかっているなら回答期限を選挙中に決めるべきではないと考えますって。よって重大な質問項目なので、期限までに回答はできかねません。平成 26 年 4 月 1 日武雄町花島松尾初秋と出しましたよ。正々堂々とできませんよ。でもねこれね、間違えたんですよ。反省点です。できかねません、これ加えたらいかんとですよ。〔「そうそうそう」と呼ぶ者あり〕できかねますと書かんといかんとですよ。〔笑い声〕いや本当に。そういうつもりで言ってないんですけどもね、本当はね、できかねますって書かんばいかんとです。私もやっぱ国語力がなかとですよ。できかねますは、できません。できかねませんはね、できてしまうかもしれませんというお話になるんですよ。〔笑い声〕でもね、できませんでした。結果、嘘言ってね、すらごと言うたかもわかりませんよ。でも、よかですよ。4 月 1 日なんとかフル、エイプリーフルフルですよ。〔笑い声〕

そういうことで、私の気持ちとしてはですよ、正々堂々できないという意味で書きました。正々堂々書いたけど、内容は門前払い的な回答ですよ、はっきり言って。まともに回答した人が 9 人、無回答が 15 人やったわけですよ。私ね、これ選挙妨害と思ったんですよ。何でかっていったらですよ、まともに答えた現職議員さん全部票ば減らしとんさあとですよ。

〔笑い声〕まともに答えた現職議員さん、A 議員さん前回 1,256 票、今回 1,192 票。64 票減です。〔笑い声〕B 議員さん前回 1,210 票、今回 1,000 飛んで 99 票。111 票減ですよ。C 議員さん前回 1,258 票、今回 890 票。368 票減ですよ。D 議員さん 948 票ですよ、前回。今回 821 票。127 票減ですよ。E 議員さん前回 980 票、今回 797 票。183 票減ですよ。F 議員さん 1,133 票ですよ、前回は。今回の得票数 796 票。337 票減ですよ。G 議員さん前回 930 票、今回 796 票。134 票減ですよ。ということはね、こういうふうな選挙期間中にですよ、この回答のためですよ、時間をとって頭を使ってですよ、おろそかになった結果がですよ、こういう結果になったんじゃないかなというふうに思うわけですよ。〔笑い声〕選挙妨害そのものではないかというふうにね。まともに回答した現職議員さんの票がみんな減っていると、そういうふうに私は感じました。〔「名前出して出して」と呼ぶ者あり〕いや、名前は言えませんよ。個人情報ですよ。

私はですよ、市長にですよ、私はねこの結果からいけばですよ、選挙妨害そのものだと思うわけですよ。まともに答えた現職議員、みんな票ば減らしとんさあとですよ。(発言する者あり)(笑い声)そういうふうに思いますけども、市長そう思いませんか。

○議長(杉原豊喜君)

樋渡市長

慎重に答弁を。

○樋渡市長〔登壇〕

慎重に答弁をしたいと思っておりますけども。

これ少なくとも私は因果関係はないと思ってるんです。やはり4年に一遍の選挙というのはやっぱりその4年間に行ったこと、そしてこれからの公約等を見てこれからの期待することのいわゆる通信簿だと思っておりますので、これ一つでこう減らすというのはないと思うんです。

ただちょっと今、資料を持ち合わせておりませんが、少なくともメディアでね、市長派とあるいは与党派と言われている方が4年前の選挙のときの得票率は65%なんですよ。今回の選挙で七十七、八%まではね上がっているんですね。ということは市民病院の民間移譲だったり、図書館だったり、さまざまな施策を進めてきたことが一定評価をされてるということだと思いますので、まあこれは事故だと思っております。(笑い声)事故だと思っております。これだけでね、減らしたというのはちょっとあまりにも気の毒ですので、今までの行いがこういうことに結びついたのかなというふうに思っております。

○議長(杉原豊喜君)

21番松尾初秋議員

○21番(松尾初秋君)〔登壇〕

私はですよ、でも選挙期間中の一番忙しか時間にですよ、頭を使いですよ、時間を使ってですよ、回答した結果が私はですよ、こういうふうな結果になったんじゃないかなと。無回答の人はですよ、高い低いまちまちですよ。(笑い声)でもですよ、まともに回答した現職議員さんは何でかみんな減らしとんさあけん、私はそういうふうに感じましたけどもね。これは市長と見解が違いますけども、私はそういうふうに感じました。

次にですよ――もうこれ消してください。次にですよ、動物愛護についてであります。私はですよ、犬・猫の殺処分ゼロの武雄市を目指したい。そういう思い、そういう気持ちで今回質問をしていきたいと思っております。選挙公報にもですよ、しっかりそのことをうたってきました。

質問としてですよ、猫をですよ、避妊・去勢に対する一部助成がなされているかですよ、そのまず利用状況についてお尋ねしたいと思います。

○議長(杉原豊喜君)

森まちづくり部長

○森まちづくり部長〔登壇〕

武雄市の猫の避妊あるいは去勢に対する補助につきましては、猫の避妊について5,000円、去勢に対して3,000円を補助をしているところであります。過去3年で見てみますと平成23年で去勢が47頭、避妊が84頭、助成額としまして56万1,000円。平成24年が去勢56頭、避妊122頭、助成額77万8,000円。平成25年が去勢55頭、避妊158頭、助成額としまして955頭（150ページで訂正）ということになっており、今実績としては増加傾向にあります。

○議長（杉原豊喜君）

21番松尾初秋議員

○21番（松尾初秋君）〔登壇〕

増加傾向というのはわかりましたけどもね。この条例の要綱ですね、1世帯ですよ2匹までに限定しているんですよ、制限している。3匹じゃだめなんですか。質問として、2匹に限定している理由は何ですか。

○議長（杉原豊喜君）

森まちづくり部長

○森まちづくり部長〔登壇〕

先ほど平成25年度の助成額を間違っておりまして、95万5,000円ということで訂正お願いします。

1世帯2匹までということでありまして、要綱を制定したときに近隣の市町村が2匹までになっていたというふうなことでそのまま準用しているということです。

○議長（杉原豊喜君）

21番松尾初秋議員

○21番（松尾初秋君）〔登壇〕

近隣に合わせたちゅうことですが、近隣が右やけん右ですか。私ね、猫のいない世帯ちゅうのはね、助成の恩恵を受けないんですよ。例えば猫が5匹、6匹いる世帯はですよ、2匹までしか恩恵を受けない。私はですよ、2匹に限定を外すべきだと私は考えます。（「なるほど」と呼ぶ者あり）やっぱりですよ、外すことですよ、たくさん猫を飼っている人はですよ、助成の恩恵を受けるけどね、自己負担もいっぱいかかるわけですね。だからですよ、私はですよ、この2匹に制限している、これは見直すべきだと思いますけどもいかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

制限を外します。2匹を20匹にします。あ、20頭かな、匹……（「頭」と呼ぶ者あり）20

頭にします。これ 100 頭も何とかというふうには、ちょっとなりかねませんので、10 倍にします。10 倍返しにします。

○議長（杉原豊喜君）

21 番松尾初秋議員

○21 番（松尾初秋君）〔登壇〕

私はですよ、20 匹、それは立派な答弁なんですけどね、私は無制限ですよ、こういうのはもう撤廃したらいいんじゃないかなと私は思いましたけども、まあそれはそれでですよ、20 匹も飼うてる人はなかなかいませんので、それはそれでありがたいと思いますので、これはこれでいいとしてですよ。

次にですよ——（モニター使用）これ私ですよ、ちょっとチラシつくったんですけども。平成 25 年 9 月の動物愛護法が改正になってですよ、犬・猫ですよ、終生飼養が義務化されました。終生飼養とは、これ 1 回、前、多分言いましたね。一度飼った犬・猫は飼い主が最後まで飼わなければならないということです。犬にも老後がありますって。もし、犬を老犬ホームに預けた場合は年間 36 万。月 3 万も費用がかかりますと。だからですよ、犬・猫は安易な気持ちで飼うのはやめましょうと。犬・猫をかわいいなという安易な気持ちで飼ってしまうとね、後々飼っていることが難しくなることがありますので、最後まで飼うように覚悟を決めて飼いましょうと。

これ私がつくったチラシをちょっと紹介しましたけどね。私はこれをこのまま配れとは言いませんけどもね、いずれにしても、このような——もっと違ってもいいですよ、内容は同じような内容のチラシを全戸に配って啓発活動に努めていただきたいと思いますけどもいかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これについては、ちょっと今準備を進めていますので、松尾議員さんの質問のやりとり、先ほど申し上げましたとおり避妊の等々の話を受けながら、この件についてはしっかり広報していきたいと思っております。ちょっと時間をいただければありがたいとこのように考えております。これ結構重大な問題にもうなりつつありますので、しかもこれ社会的要請も極めて強いことでもありますので、ここはしっかり広報を御指摘のようにさせていただきたいとこのように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

21 番松尾初秋議員

○21 番（松尾初秋君）〔登壇〕

私の思いでは、犬・猫の殺処分ゼロの武雄市を目指したいちゅう思いで、本当に安易な気

持ちで犬・猫を飼うたらいかんとですよ。覚悟を決めて飼わんばいかんと私は思いますので、ぜひともこれはよろしくお願いしていただきたいと思います。もう、これ消してよかですよ。

質問として、飼っている犬・猫が死んだ場合は、その処理について市に問い合わせがあった場合は、どのような対応をとっていますか。

○議長（杉原豊喜君）

森まちづくり部長

○森まちづくり部長〔登壇〕

飼い主で対処していただくかですね、市内のペット葬儀をされているところを御紹介をしているのが現状であります。

○議長（杉原豊喜君）

21 番松尾初秋議員

○21 番（松尾初秋君）〔登壇〕

飼い主にお願いするか、ペットの葬儀ですね。葬儀代も高いですもんね。実はね、鹿島市とか嬉野市はですね、手数料払えばですよ、死んだ犬・猫を市が引き取ってくれるように私は聞きました。鹿島市の場合はですよ、手数料が1,000円。嬉野市は1,500円。やっぱりよそがですよ、右んときは右ばせんばいかんときもあるとですよ。そう思います。だから、ぜひとも、武雄市もこういうのをやっていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これぞ一般質問だと思うんですよね。ですので、近隣の市町村の事例を引きながらね、こうあるべきだということ。そして私たちからその答弁を引き出すこと、これはできないありませんけどねっていうのが、すごい僭越で申しわけないんですけども、すごく今いいなというふうに思っています。

その上で申し上げますのは、この件についてもちょっと例えば御指摘のありました、嬉野市さんとかちょっと調べさせてもらって、この件についても動物愛護を図る観点から私は必要だと思っていますので、担当課とここはしっかり詰めてまいりたいと思います。これについても制度を詰め次第——まあ以前、もう1年ぐらい前かな、動物愛護について市報に出しましたけれども、これは一回こっきりじゃなくてね、やっぱりこう定期的にやっば出す必要があるだろうと思ってますので、次出す機会にはこの件についてもきちんと触れたいと思っていますので、これはやる方向で制度設計をしたいとこのように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

21 番松尾初秋議員

○21 番（松尾初秋君）〔登壇〕

近隣の市がですよ、右というにの倣えじゃないですけどね、倣わんばいかんときもありますのでですよ、ぜひとも、これはしていただきたいと思います。

次に、男女共同参画でありますけども、質問としてはですよ、区役の出不足金の話もありますね。ばりばり働く女性とよぼよぼのおじいさんとですよ、一緒に出てですよ、働く女性が出たのに出不足金を払わんといかんと、これはおかしいでしょうという話がありました。山口裕子議員さんが一生懸命言われてました。まあそう言わずにですよ、男性だからいかん、女性だからいいとか、こういうふうに男性だから女性だからと性をもって差別することがいかんわけですよ。そういうふうには思います。

私は平成 20 年 3 月議会で、一般質問の中で同窓会等で会費の男女差があるとですよ、男女共同参画の視点で考えればこれはおかしくなかでしようかという質問をしました。そのとき市長さん、また当時のつながる部長さんですかね、おかしいと思うという答弁をされましたけども、この考え方は今も変わりませんか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

変わりません。

○議長（杉原豊喜君）

21 番松尾初秋議員

○21 番（松尾初秋君）〔登壇〕

（モニター使用）これですね、新年の賀詞交換会御案内、商工会議所さんの会長さん、こんな個人名やけん〇〇〇にしましたけども、こういうふうになってまして、ここですよ、参加料 1 人男性 5,000 円、女性 3,000 円ですね。やっぱりこういう観点からいけばですよ、これも区役の出不足金といっちょん変わらん話なんですよ、男性やけんどうだ、女性やけんどうだちゅうのがいかんとですよ。私はそう思います。おかしいというふうに思いますけども、実はね、この商工会議所さんですね、これは武雄市の男女共同参画の推進の市民会議のメンバーだと聞きましたけど事実ですか。

○議長（杉原豊喜君）

平川つながる部長

○平川つながる部長〔登壇〕

事実でございます。

○議長（杉原豊喜君）

21 番松尾初秋議員

○21 番（松尾初秋君）〔登壇〕

事実という話を聞きましたけどね、やっぱりですよ、市は男女共同参画推進の立場で、会

費の男女差をなくすように、商工会議所さんに働きかけていただきたいと思いますけども、この点についていかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これは働きかけたいと思いますね。やっぱりこれは純粋な民間のね、例えば企業あるいは団体だったら、これはもう指導する権限もありませんけれども、公的な機関ですので、これはしっかり言いたいと思います。そもそもこう出てますけど、僕ごめんなさい、これ初めて見たんで、僕の場合は秘書課に来て不承不承出ますけれども、参加料の1人5,000円というのは高すぎですよ。この御時世で5,000円出せる人いますか。しかも、これ単に関係者が集まるだけなんです。これこのままだったら、来年行きません。

○議長（杉原豊喜君）

21番松尾初秋議員

○21番（松尾初秋君）〔登壇〕

男性5,000円高いちゅうことですが、これどがんとでもよかですよ。やっぱりこの差がですよ、やっぱり私は問題だというふうな指摘をしました。

答弁後になりますけども、やっぱり男女共同参画を推進するならばですよ、女性としてやっぱり経済的に優遇されている部分を吐き出してこそ、初めて男性の私は理解も得られてですよ、本当の意味での男女共同参画が広まってくると私は自信を持って、確信を持って思っておりますけども、以上のことを言って私の一般質問を終わります。

○議長（杉原豊喜君）

以上で21番松尾初秋議員の質問を終了させていただきます。